Weekly Market Report

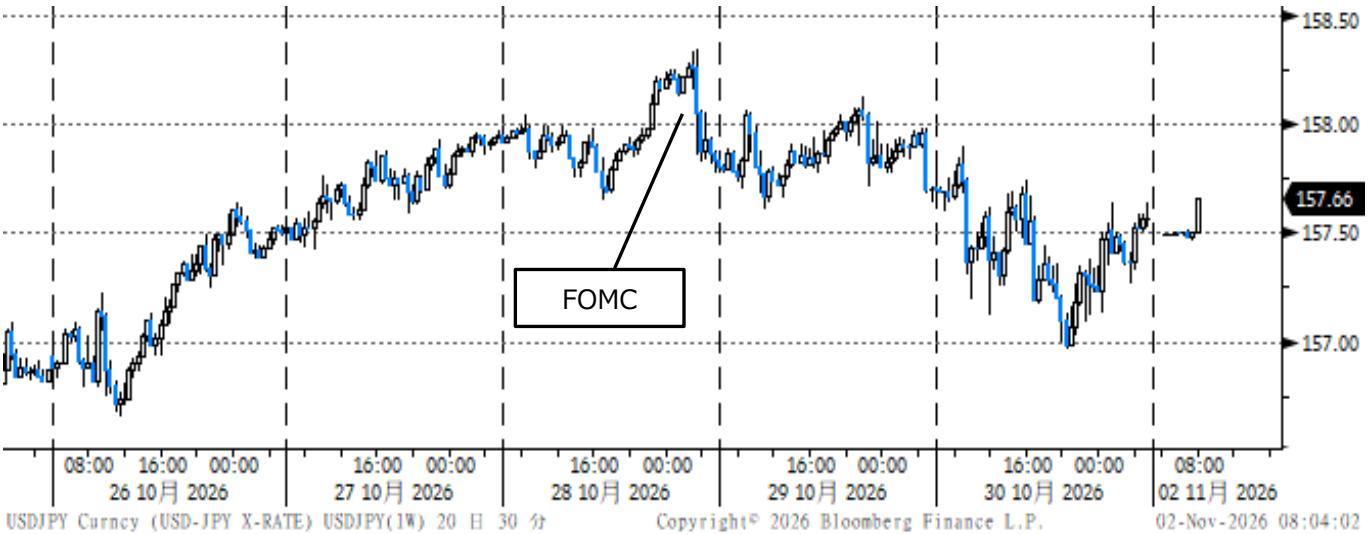
FX, JPY Interest Rate, Topics

Nov 2, 2026

1. 為替相場概況

先週の米ドル円相場は小幅に円安進行。今週は中間選挙、雇用統計等材料が目白押し。

USD/JPY （1週間の値動き）



（出所）Bloomberg

コメント

先週の米ドル円相場は小幅に円安進行した。週初は米FOMCや日銀金融政策決定会合などの重要イベントを前に、一方向のトレンドは出にくく、1米ドル=157円50銭付近で一進一退の値動きで開始した。米FOMC、日銀金融政策決定会合では、市場の予想通り政策金利の据え置きが決定されたものの、利上げ継続姿勢が示唆されたことで1米ドル=158円近辺まで上昇した。サプライズとなったのは、日銀金融政策決定会合にてETF売却ペースが引き上げられたことで、日経平均先物の下落に足並みを揃える形でドル安・円高に進む場面がみられた。今後の両国利上げ方針を見極める上で、目先は6日発表の雇用統計にて労働市場の勢いが回復するかが最大の焦点になりそうだ。また、今週は米国の中間選挙に注目。「ねじれ議会」や民主党が上下両院で過半数を奪取するシナリオも想定され、上下に振れる可能性には留意しておきたい。
（市場営業部/下出）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
11/2(月)	（米国）製造業PMI	56.0
11/2(月)	（米国）ISM製造業景気指数	54.7
11/4(水)	（米国）ISM非製造業景気指数	54.7
11/6(金)	（米国）雇用統計	5.5万人
11/6(金)	（米国）ミシガン大学消費者信頼感指数	47.2

USD/JPY（5年間）



（出所）Bloomberg

今週のレンジ予想（USD/JPY）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
亀城彰太	153.50－159.50	10月の月間値幅が約4年半ぶりの小幅変動に留まっており、注目イベントである米中間選挙後の急変動には警戒が必要。
鈴木万里子	156.00－158.90	注目の米中間選挙後、前回予想を下振れた雇用が再び弱い結果となればドル売り優勢に。上下に振れる展開を予想。

2. 円金利相場概況

日銀会合を無難に通過、リスクオフが金利低下を後押し

10年国債金利と債券先物 （1週間の値動き）

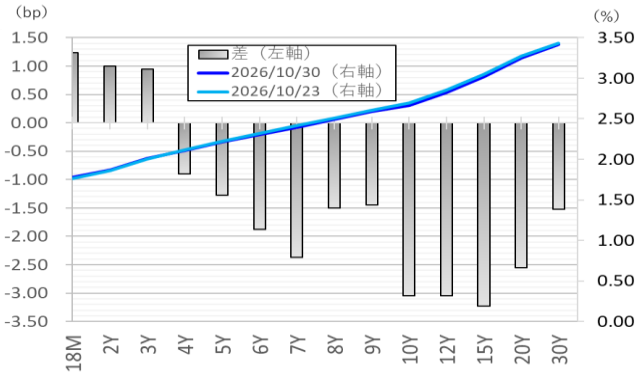


（出所）Bloomberg

コメント

先週の国内金利市場は、週初に超長期ゾーンが底堅く推移した後、週半ばにはベアスティープニングが進み、週末に急反発する展開となった。26日はロングエンド主導のツイストフラットニング、27日は15.5～39年の流動性供給入札が強い結果となったものの、相場への波及は限定的だった。28日は中東情勢の悪化に伴う原油高・米金利上昇に加え、フラットナーポジションの解消も重なり、40年金利は8bp上昇して4.025%、先物は32銭安となった。29日も超長期主導で軟調に推移したが、30日は米金利低下とハイテク株安を背景としたリスクオフで反転し、10年金利は6bp低下、40年金利は7bp低下、先物は50銭高で引けた。日銀金融政策決定会合は市場予想通り政策据え置きとなり、市場への直接的な影響は限られた。今週は、10年債入札が予定されている。リスクオフを背景に金利低下が進む中、市場ではショートポジションの構築は不十分であるとみられ、10年債入札は一時的な金利上昇要因となり得るとみている。（市場商品部/金利G）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



（出所）Bloomberg

今週のレンジ予想 （10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
飯野りさ子	2.68%－2.88%	今週最大の注目材料は米中間選挙。共和党と民主党の勝敗によって大きく金利上昇・低下する可能性があると予想する。
伊豆浦 有里恵	2.66%－2.90%	今週ははリスクオフの流れや米中間選挙などが波乱要因。米金利動向を睨み、方向感を探る展開となりそう。

3. 今週のトピックス

ユーロ相場動向

ECBの利上げ期待は継続しているが、フランスなどの政治的な不透明感がユーロ相場の上値を抑制

＜ユーロ圏の経済状況＞

10月のユーロ圏PMIは51.9と前回の53.1から悪化する結果となった。製造業は52.4（前回52.9）、サービス業は51.7（前回53.0）にそれぞれ減速しており【図表1】、デモの拡大で社会不安が高まっているフランスのPMIが48.4と50を下回る水準まで悪化した影響が大きいとみられる。ドイツについては製造業に改善がみられた一方でサービス業の減速が示されている。ユーロ圏のインフレについては、9月のHICP総合指数が前年比+3.8%、コア指数が+2.5%とエネルギー価格の上昇を受けて物価上昇圧力が強まっているが、コア指数への波及は今のところ限定的といえそうだ。

＜ECBの金融政策＞

ECBは原油高によるインフレ懸念の高まりを受けて今年6月と9月の理事会で2回の利上げを実施したが、10月のECBでは預金ファシリティ金利を2.50%で据え置きとしている。声明文では「金融環境の引き締まりがインフレと経済成長の重石となる」といったやや ハト的な文言が追加されたが、ラガルド総裁が記者会見で「金利が向かう方向は明確」と発言したことで12月の利上げ期待は維持され、市場では来年の夏までに3回程度の利上げが織り込まれる状況となっている。ラガルド総裁からは任期満了前となる来年2月の退任も発表されている。

また、ユーロ圏ではドイツ国債とフランス国債の金利スプレッドが急拡大しており【図表2】、これはフランスの財政悪化懸念に加え、物価高への不満から国内で大規模なデモが続いていることが背景となっており、独仏10年金利スプレッドは一時175BPと2012年の欧州債務危機を上回る水準まで拡大している。ただし、ムーディーズがフランスの格下げを見送ったこともあり、現在は165BPまでやや縮小している状況だ。

＜当面のユーロ相場見通し＞

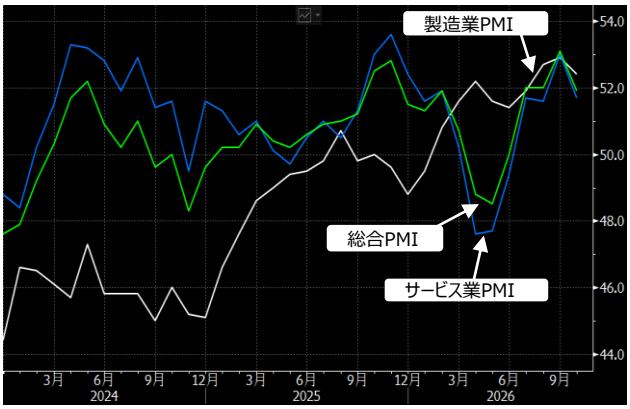
ユーロ相場については、ECBの利上げに向けたスタンスが下支えとなるものの、欧州景気の減速懸念に加え、来年に控えたフランス大統領選で極右のルペン氏が優勢となっていることや、ドイツの州議会選挙で極右政党「ドイツのための選択肢」が躍進するなど、欧州で政治的な不透明感が高まっていることが上値抑制要因となってくる。

ただし、AI関連の過剰投資への懸念から株安と米金利の低下が進み、為替市場がドル売り地合いとなっていることから、過度にユーロ売りが進む可能性は低いとみられる。当面のユーロ相場は対ドルで1.080-1.1500、対円で170.00-180.00円と上値の重い展開を想定している。

シカゴ通貨先物の投機筋ポジションでは、ユーロのネットショートが15万枚程度まで拡大しており、ここからのユーロ売り圧力は徐々に弱まってきそうだ【図表3】。

（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我）

【図表1】ユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）



（出所:Bloomberg）

【図表2】ECB政策金利と独仏10年金利（%）



（出所:Bloomberg）

【図表3】ユーロドル相場とシカゴIMMポジション（枚）



（出所:Bloomberg）

ご留意事項

・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものでもありません。
・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断でお願いします。
・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。

あおぞら銀行
AOZORA

商号：株式会社あおぞら銀行　（登録金融機関　関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会